

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かがやきこども園 単位2		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～ 令和8年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～ 令和8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【意思決定・組織運営・改善体制・情報共有】</p> <p>職員から現場の実態に基づいた具体的な意見が多く挙げられ、「よりよい支援を行いたい」という意識の高さが見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場から意見が出る土壌があり意見が具体的で実践的である ・運営に対して関心を持っている職員が多い ・課題に気づき、改善を求める声上がる組織である ・情報共有の必要性を職員全体が認識している ・支援の質向上に向けた情報交換の意欲がある 	<p>「現場から課題が上がる健全な組織」を目指して、「仕組みとして」改善に結びつける環境を作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認メモを作成し、必要に応じてミニ会議を設定している。 ・共通の会議記録フォーマット(決定事項、意見、背景、担当及び期限、運用ルールを盛り込んだもの)を作成し、全員が共有できるようにしている。 	<p>属人的な対応を改善し、「誰もが同じように動ける仕組みづくり」を進めることで、より質の高い支援体制の構築を目指す。「伝えつもり」をなくす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出勤時間が揃わない状況があるため、朝礼のほかに昼礼を行い、日々の共有を徹底する。 ・共有ルールの統一を図る(連絡ノート等)。決定事項は掲示するなど見える化する。 ・意見提出→検討→回答の流れを可視化する(例:意見箱→検討→必ずフィードバック) ・ミニ会議の徹底運用。 ・職員が働きやすい環境作りを継続していく。
2	<p>【環境・安全面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常業務の中で危険箇所を見つける職員の意識がある ・利用者の状況に応じた環境調整を行おうとする姿勢がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用人数や活動内容に応じた部屋の使い分けをしている。(静的活動/動的活動/入浴支援の分離) ・時間帯でのローテーション。 ・安全チェックリストによる月1回の点検。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな改善を重ねる。 ・他事業所を視察して新たな情報を得て改善につなげる。
3	<p>【支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア、入浴、学校への迎え、療育活動等、利用者様及びご家族様に寄り添いながら、安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師による安心安全な医療的ケア、理学療法士によるリハビリ運動、全職種による生活支援及び療育活動を実施している。 ・利用者様の表情やしぐさ、体のちょっとした緊張具合等を読み取りリラックスして過ごしていただけるよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の生活を支える場として、ご家族様にも寄り添う姿勢を大切にしていく。 ・常勤看護師を2名配置し、支援体制を整えていく。 ・挨拶係等のキャラクターを作り、日々のコミュニケーションや感覚刺激の手段に用いていく。月間で共同制作や音楽活動、絵本、感触遊び等を企画し、取り組んでいく。
	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の広さや使い方に課題があり、活動に影響が出ている。 ・コード類など安全面の配慮が不十分な箇所がある。 ・エアコン等の衛生管理が行き届いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づいた人がやる」体制がある。 ・施設内の各場所の責任者は明文化しているが、浸透していない。 ・大きな清掃や草取りに取り組む時間がとれない状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間の使い分けルールの明確化。 ・安全対策の項目見直し。 ・曜日や時間を決めて設備、環境管理を計画的に実施する(業者活用含む)。 ・役割の意識向上を目指した仕組みを作る(役割の内容を具体的に明文化する等)。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の方法が統一されておらず、伝達にばらつきがある。 ・決定事項が十分に共有されず、「知らないまま進む」状況がある。 ・意思決定の過程が見えにくく、納得感が得られにくい。 ・現場の意見が反映されていないと感じる状況があり、意見が改善につながらないと感じるケースがある。 ・改善の進捗が見えず、継続的な取り組みになりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が全員揃う時間帯が限られている。 ・決定事項の経過や背景がわからない。決定前の段階の情報がない。 ・紙ベースの回覧物が多く、確認に時間がかかる。 ・何のために行うのか、目的や期限等、細かなところが伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の朝礼に昼礼を加えていく。 ・情報共有ルールの統一(口頭+記録の徹底)。 ・決定事項の見える化と周知の強化。 ・共有内容に背景・理由・経過を含める運用とする。 ・改善提案の受付・進捗管理の仕組み化 ・小さな改善の迅速な実行 ・定期的な振り返りによる継続的改善 ・結果に対するフィードバックの徹底
3	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師配置が不足した場合、やむを得ず利用の見送りや送迎対応が困難となる状況があった。 ・入浴支援中の環境への不安。 ・療育的支援が放課後は難しい。 ・現在も利用者様、ご家族様の交流イベントは行っているが充足感に欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は常勤看護師1名体制としてきた。 ・パーテーションもかなり場所をとり使いにくさもある。 ・放課後は入浴と医療的ケア等の生活支援が中心となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤看護師を2名体制として改善を図る。 ・パーテーションの使い方を見直す。 ・入浴時間やお迎え時間を調整しながら作業がぶつからないよう工夫していく。 ・長期休暇に大きな活動を設定する。土曜日に入浴支援を設け家族支援の日としていく。 ・こども園全体のイベントを企画し、交流していく。